

令和6年度 授業改善推進プラン（小学校学級担任用）

福生市立福生第一小学校 第1学年2組

1 福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国
学びに向かう力	感情のコントロール			
	目標の達成			
	他者との協働			
	学力と関係が深い質問			
	領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題		
国語	言葉・情報・言語文化			
	話すこと・聞くこと			
	書くこと			
	読むこと			
算数	数と計算			
	図形			
	変化と関係			
	データの活用			
2 児童の実態		3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組		
<p>・国語では、単元ごとのワークテストで正答率が高い児童が多い。一方で、「知識・技能」を問う問題の正答率が全体的に低く、中でも拗音と促音の正しい使い方に課題がある。また、「は へ をつかおう」の学習でプリントに取り組んだとき、確実に理解している児童が少なく、助詞の使い方についても課題があることが分かった。ひらがなを正しく書くことができていない児童もいるため、日頃より丁寧な文字を書くよう指導する必要がある。</p> <p>・算数の「おおきい ちいさい かずくらべ」は、ほとんどの児童が理解できている。しかし、「5はいくつといくつ」「8はいくつといくつ」は、単元のワークテストの正答率が低く、数の概念が身に付いていないと考えられる。そのため、計算では、具体物を使う児童が多い。素早く、正確に計算できるようにするために、繰り返し指導していく必要がある。</p>		<p>・拗音と促音の正しい使い方は一回の学習で定着させることは難しいため、繰り返し指導していく必要がある。そのため、作文をするときは、児童一人一人の文章を分析し、個の課題に合った指導を行うとともに、授業の中で復習プリントやミライシードのドリルパークの問題を繰り返し行うことで定着できるようにする。また、日頃から丁寧な文字を書くようノート指導を充実させる。</p> <p>・算数の学習では、授業ごとにノートを回収し、数の概念が理解できているかなど児童一人一人の理解度を見取り、課題に合わせた授業づくりを行う。また、計算を素早く、正確にできるようにするため、単元の終わりの定着の時間には、習熟度に合わせたプリントを準備し、取り組ませる。</p>		
4 ミライシードとの連携機能を活用した取組				
個別ドリルの実施状況				
確認テストの実施状況				